

糖尿病合併症の予防のために私たちができること

—糖尿病チーム医療の一員として—

◎森山 美奈子¹⁾、米田 裕美子¹⁾、森 多恵子¹⁾、西川 香奈子¹⁾、寺井 利枝¹⁾、小林 史孝¹⁾、松本 克也¹⁾
地域医療振興協会 市立奈良病院¹⁾

【はじめに】糖尿病患者に良質な医療を提供するため、当院の糖尿病内科では「専門資格を持った医療スタッフによる糖尿病療養指導」と「糖尿病合併症を含めたトータルケア」をキーワードに診療にあたっている。臨床検査技師が糖尿病チーム医療にどのように関わり、療養指導を行っているか、そのオリジナリティ溢れる取り組みを報告する。

【活動】当院に在籍する日本糖尿病療養指導士（以下CDEJ）は現在16名おり、臨床検査技師はその内の4名である。臨床検査技師の活動は、血糖自己測定指導に加え、外来糖尿病教室での講演、教育入院患者の病棟カンファレンスへの参加、また、教育入院患者を対象とした少人数制の「ミニ教室」の開催など多岐にわたる。「ミニ教室」では、教育入院中に受ける様々な検査の説明を、オリジナルの紙芝居を用いて説明している。特に血管に関する説明には力を入れており、動脈硬化の進展をあらわした模型を用いるなど、解りやすく工夫している。教室の最後には動脈硬化とその検査について説明した冊子「血管いきいき」の配布を行っている。この「ミニ教室」にはCDEJに加えて、

脈管領域の専門知識を有する血管診療技師（以下CVT）が関わり、共同して教材を製作し、「ミニ教室」の説明を行っている。CVTの参加により、より解りやすく、内容の濃い検査説明が行えているものとする。また、CDEJ以外の、療養指導に関わる検査室スタッフ間の情報共有のため、週一回のミーティングを行っている。CDEJと共にディスカッションすることにより、スタッフのスキルアップがはかれ、より良い療養指導につながっているものとする。その他には、オリジナルの療養指導アイテム「糖尿病生活を応援 日めくりカレンダー」の製作において、臨床検査技師が中心となり、他職種のCDEJと共に考案、製作を行った。このアイテムは、当院の糖尿病患者のみに留まらず、他院の医療スタッフにも高い評価を得ている。【まとめ】糖尿病合併症の予防に向けて、その検査を担当する臨床検査技師が、積極的に糖尿病療養指導に携わり、チームに貢献していくことは極めて重要であるとする。今後としては、患者一人一人に合わせた検査説明に取り組んでいきたいとする。連絡先:0742-24-1251